



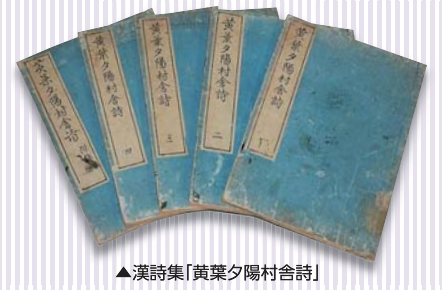
歴博がリニューアルオープン

郷土の偉人、菅茶山(かん ちゃざん)の展示が充実

県立歴史博物館(ふくやま草戸千軒ミュージアム)が、昨年10月に近世文化展示室「菅茶山の世界」をリニューアルオープン。江戸時代を代表する儒学者、漢詩人の世界がより身近になりました。

菅茶山ってどんな人?

菅茶山は、江戸時代後期に現在の福山市神辺町に生まれました。19歳の時、京へ出て儒学と医学を学び、神辺に帰って私塾(現在も残る廉塾)を開き、頼山陽(らい さんよう)をはじめ、多くの弟子を育成。漢詩集「黄葉夕陽村舎詩」(こうようせきやうそんしゃし)はベストセラーとなり、その名は全国に広まりました。



▲漢詩集「黄葉夕陽村舎詩」

国重要文化財を展示

茶山が各地の文化人との交流ネットワークの中で収集した作品や手紙、茶山や一族の著述や日記など多種多様で貴重な資料を所蔵しています。2か月毎にテーマ展示を行っており、4月11日から6月9日まで、茶山の古希のお祝いに贈られた品々を紹介する「長寿を寿(ことほぐ)」を開催します。



▶菅茶山肖像画
神辺という地方を拠点としながらも、全国に名を轟かせた多くの文人と交流しました。

ふくやま草戸千軒ミュージアム
(県立歴史博物館)

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日が休館)
問い合わせ先 福山市西町2-4-1 電話 084-931-2513

メキシコ代表のバレーボール選手団が 呉市の小学校で児童と交流しました

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」への出場を目指すメキシコ選手団は、今後も交流事業を続けていきます

昨年9月、呉市内で事前合宿を行っていたメキシコ代表バレーボール選手団が呉市立昭和北小学校を訪問し、児童と交流しました。

児童の声

「オリンピックで選手を応援したい」「選手たちのように子供に夢と与えられる輝ける人になりたい」

選手の声

「日本の文化を知ることができてうれしい」「素敵な時間を過ごすことができた」



応援しよう!



26競技のメキシコ選手団が、広島県内10市町で事前合宿を実施します。今年度は、より多くの選手団が合宿する予定です。

合宿の詳細情報はこちら



「くりっぶ情報局」が行く おしえて! よくばり先生



三次市立甲奴小学校 外国語パワーアップリーダー 信田 育実 先生

子供たちが生き生きできる英語教育を目指します。

くりっぶ 来年4月からの小学校外国語の教科化に向け、どのような取組をされていますか?

先生 児童に英語を教えるだけでなく、他の先生方にも英語教育の研修を行っています。責任が大きいだけに、すごくやりがいがありますね! 英語を勉強することは、違う文化を受け入れられるようになることでもあります。児童は言葉が分かってくると、外国から来たALT(外国語指導助手)と生き生きとコミュニケーションをとるようになります。異文化交流を行うことは、人を大切にすることを育むことにもつながると考えているので、英語や外国の文化があふれる教育環境をつくりたいな、と思って取り組んでいます。



校舎のそとがしこに英語があふれる環境づくり

くりっぶ 先生のパワーの源はいつ養われているんですか?

先生 家族と一緒に大好きなアウトドアへ出かけるときでしょうか。三次にはカヌーができる場所もあるし、去年はしまなみ海道まで足を延ばして、スタンドアップパドルに挑戦しました。うちの子供はまだ小さく、何か特別な英語教育をしているわけではありませんが、ドライブ中に洋楽をかけると、ノリノリで聴こえたまま歌い、それがまた良い発音なんです(笑)。私も、もっと英語を勉強して、これからも外国語で話す楽しさを児童に伝えていきたいです!



休日はアウトドア! 水辺でパワー充電中

取材MEMO

静かな山合いの小学校にこだまする子供たちの元気な声、教室いっぱいに張り出された手づくりの英語教材…。魅力あふれる授業風景が目につかぶ、素敵な取材になりました。

親子のコミュニケーションを応援! 指示より支持してみよう



お子さんが完璧に出来るように、あるいは早く終わらせたくて、つい口や手を出してしまうことありませんか? そこをちょっと見守り、お子さんの考えでさせてみませんか? 「やりきった」と自分で行動する楽しみが高まりますよ。



● 困っている時は、「〇〇したらどうかな」と、お子さんが自分で判断できるように働きかけるのもいいですね。
● 頑張ったことはほめるといいですね。

遊びの中に学びがある

乳幼児教育支援センターの取組

幼児期の育ちと学びを 小学校教育につなげていきます

平成30年4月、広島県教育委員会は、乳幼児期の教育・保育を充実させるための拠点として、県庁内に「乳幼児教育支援センター」を設置しました。

同センターでは、幼保小連携の充実を目的に、小学校教諭を幼稚園等に派遣しています。平成30年度は3名が1年間幼稚園で幼児教育について学びました。今後は、幼保小連携の中心となって幼児教育と小学校教育の橋渡しをしていきます。



先生にインタビュー

東広島市立西条小学校から
同市立御園(みその)幼稚園に
派遣された加藤 健(かとう けん)先生に
お話を伺いました。



加藤 健 先生

園児たちがスムーズに小学校に慣れるよう、橋渡しをしたいと思い、この研修を希望しました。園での生活や遊びの中には多くの学びがあり、園児は日々それぞれの興味や可能性を伸ばしています。環境の変化に不安を感じる子供たちも多いので、楽しく小学校生活がスタートできるように、小学校教育と幼児教育の両方の良さを生かした教育を進めていきたいです。



特別支援学校の取組

ICTの活用で、 子供たちの自立を促進!

県立広島西特別支援学校(大竹市)は併設病院に入院中の児童生徒が在籍しています。分身ロボットを使った買い物学習など、学校ではICTを活用した教育を推進しています。病室からの移動が困難な児童も、この学習の後は自分で必要なものを買うようになりました。

このほか、高等部の情報の授業でも、生徒がオリジナルのゲームを制作し、学校祭で発表するなど、積極的にICTを活用しています。



分身ロボットを操作して、買い物の仕方を学習しました

売店の様子を画面で確認

「はさみ」はどこかな?

すみませーん! 「はさみ」をください

買った物完了!

はさみを見つけて購入